

(特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

平成30年度 徳島県立徳島視覚支援学校学校「学力向上実行プラン」

徳島県立徳島視覚支援学校長 橋本 敦子 印

## 1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	橋本 敦子 福原 孝弘
学力向上推進員	教諭(研究・情報課長)	内田 敬久
委員	教諭(中高等部部長) 教諭(幼小学部部長) 教諭(教務課長) 教諭(渉外・安全課長) 教諭(生徒活動課長) 教諭(人権・キャリア教育課長) 教諭(サポート課長) 教諭(研究・情報課長) 教諭(寮務主任) 主任寄宿舍指導員	蔭岡 絵美 久樹 磨美 漆原 幸子 中 香苗 松本 寛子 渡邊 珠子 倉元 麻由子 内田 敬久 吉本 佑司 長谷川 美智代

## 2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

### 【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

( 幼稚部 ) 幼児児童生徒の状況

よ さ	○それぞれの方法で気持ちを表現しようとする意欲がある。保護者との愛着関係を基盤にして教員との愛着関係を築き始めており、周囲の環境や友だちへの関心も芽生えてきている。	課 題	○2クラスに幼児が在籍するため、教員間で指導の手立てを共通理解するとともに家庭とも連携し、幼児が1つ1つの経験を積み重ね、興味・関心の幅を広げられるような保育を実施していくことが課題である。また、大人とのみ関わる機会が多いため、幼児が友だちを意識したり関わったりできるようになることも課題である。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
○教員の支援を受けながら、友だちを意識したり、友だちと関わったりしようとする。		○週に2回、年少児と年長児が一緒の部屋でおやつを食べる。 ○保健室への出席報告を曜日ごとの当番制にし、週に1回は出席報告に行ったり出席ボードを次の当番の友だちに渡したりする。	----- 評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
○それぞれの幼児の実態や支援の方法を家庭とも共通理解するとともに、視覚障がい教育や保育に関する知識や指導方法を身につける。  ----- * 中間期の見直し		○個別の指導計画の目標や手立てを年に2回以上学部内で確認する。 ○保護者向けの学習会を年に3回以上実施し、学習会での内容や保護者からの情報を学部内で共有する。 ○幼児の実態に関するケース会と保育に関する検討会を合わせて年に10回以上実施する。	
達成状況を踏まえた改善事項			

（ 小 学 部 ） 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況			
点 ゆ	○少人数対応や個別対応できる学習時間を確保しやすく、各児童の障がいの程度や健康状態などに応じたきめ細やかな学習活動を展開できる。	課 題	○児童の障がいが重度・重複化しているため、習得したスキルを定着させるための時間がかかったり、場面や支援者が変わると応用が難しかったりする。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
○役割やできるようになったことを、他学級や他学部との活動で表現することができる。		○他学級や他学部の友だちや教員と集団で行う学習(体育、学級活動、生活単元学習)に関する個別の指導計画の目標において、その評価の「◎」または「○」が、学部全体で80%以上になる。	----- 評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
○個別の教育支援計画や個別の指導計画の内容を共有し、他学級の児童に対しても、その実態に応じた適切な支援を行うようにする。		○各児童のケース会議を年6回以上実施する。 ○ケース会議は、児童の実態表および、個別の教育支援計画と個別の指導計画の内容をもとに実施する。	
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			

（ 中学部 ） 幼児児童生徒の状況			
点 数	<p>○生徒は1名であるが、少人数のよさを生かし、理解度に合わせた指導によって学習に積極的に取り組んでいる。また、音声教材や点字教材等、多様な方法で資料や課題を提供し、学びやすい工夫を行っている。</p> <p>さらに、学校と寄宿舎が連携して生活スケジュールを見直したことで、昨年度より学習時間が増し、自己学習に励んでいる。</p>	課 題	<p>○平日は寄宿舎での規則正しい生活によって学習時間は安定しているが、週末は家庭での生活リズムが乱れがちになる。すべきことを順序立てて取り組み、自己学習の習慣をつけることを今年度の課題としている。</p>
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
<p>○規則正しい生活を送れるよう自己管理能力を高めるとともに、自ら工夫して学習習慣を身につける。</p>		<p>○週末、家庭で1日3時間以上学習する日が帰宅日全体の7割以上となる。</p>	----- 評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
<p>○週末の家庭での生活リズムが乱れないよう計画と実際を記録させる際には、生徒の状態に応じた手立てを考える。</p> <p>○学活の時間を活用し、自己学習の大切さを理解させ、自ら進んで取り組めるよう意識づけする。</p> <p>* 中間期の見直し</p>		<p>○週末の起床・就寝・学習時間等、1日のスケジュールを立て、記録をもとに自己評価させる。</p> <p>○自己学習で取り組めるよう音声データや点字での課題提供を行う。</p>	
達成状況を踏まえた改善事項			

( 高等部普通科 ) 幼児児童生徒の状況		
よ さ	<p>○準ずる教育課程の生徒2名, 自立活動を主とした教育課程の生徒1名が在籍しており, 3名とも中学部からの進学で環境の変化が少ないことから落ち着いて学校生活を送ることができている。高等部での活動に意欲的に取り組むことができている。</p>	<p>課題</p> <p>○卒業後の進路希望や生活について具体的に考え, 将来の社会生活に必要な力や意欲を向上させ, 自立活動や教科等の学習, 総合的な学習の時間, 学校教育全体を通じて, 日常生活での自立や社会性, マナー, コミュニケーション能力などを身につける。</p>
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
<p>○将来を見据え, 自分の課題に取り組み, 日常生活や職業生活, 社会生活に必要な能力や意欲が向上する生徒。</p>	<p>○準ずる教育課程の生徒は, 就業体験における評価項目で, 職業生活や対人関係, 作業能力, 仕事への態度などの項目で80%以上の項目で「はい」と自己評価することができる。</p> <p>○自立活動を主とする教育課程の生徒は, 個別の指導計画の目標のすべての項目で80%以上「◎」か「○」の評価を得る。</p>	
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
<p>○将来を見据え, 進路指導主事, 保護者や寄宿舎指導員, 関係機関と密に連絡を取り, 情報交換を行い, 個々に応じた施設や事業所の見学や就業体験, 校外模試等を行い, 個々の課題や必要な支援を明確にする。</p>	<p>○中・高普通科会や学科会で, 生徒の様子や課題について話し合い, 共通理解を図る。</p> <p>○必要に応じて保護者や寄宿舎指導員, 関係機関と懇談や就業体験反省会, 支援会議を行う。</p> <p>○1人1回以上施設や事業所の見学, 就業体験を行う。</p> <p>○進学を希望する生徒は校外模試を行う。</p>	
<p>* 中間期の見直し</p>		
達成状況を踏まえた改善事項		

( 高等部職業学科 ) 幼児児童生徒の状況			
よ さ	○あん摩・マッサージ・指圧師、はり師、きゆう師になるという卒後に向けての明確なビジョンを持って学習に取り組んでいる。	課 題	○一人一人異なる見えにくさからくる学習の困難をどのようにクリアしていくかが課題となっている。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
○専門的知識や技能を身につけると共に、医療人としての自覚をもち、他者と共存しながら、健康で豊かな人生を自ら切り拓くことのできる生徒。		○定期考査や実技評価等で6割以上の成績を取る。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
○知識・理解・技術を深めるために、生徒個々の課題を教員全体で共有し、改善を行いながら取り組む。		○生徒個々の課題に対して理療科会や職業学科会で共有し、補助具を適切に活用した授業及び補習を行う。	
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			